

日本地域学会ニューズレター

平成 26 年 no.1

平成 26 年 3 月 1 日

目 次

I.	会長挨拶	...	2
II.	総会報告	...	3
III.	理事会報告	...	4
	平成 25 年度第 4 回－第 7 回理事会		
IV.	委員会報告	...	5
	1. 機関誌編集委員会 第 45 回機関誌編集委員会		
	2. 学会賞選考委員会		
V.	役員人事等	...	6
VI.	会費納入のお願い	...	7
	平成 26 年度会費請求 納入期限平成 26 年 3 月末日		
VII.	第 51 回日本地域学会年次大会 (平成 26 年 10 月 3－5 日) のご案内	...	8
VIII.	国際地域学会関連会議のお知らせ	...	9
IX.	学会賞候補者推薦の募集	...	10
X.	会員の移動	...	11
	日本地域学会第二代大石泰彦先生への弔辞	河野博忠	13
	大石先生の御逝去を悼む	福岡克也	14
	「日本のマーシャル」大石泰彦先生を追悼する	酒井泰弘	15

I. 会長挨拶

平成 26 年 2 月 1 日
日本地域学会
会長 氷鉤 揚四郎

既にご存知の方もおられるかと存じますが、誠に悲しいお知らせから始めなくてはなりません。第 2 代日本地域学会会長の大石泰彦先生が 1 月 16 日に逝去されました。大石先生は主要な創設メンバーとして日本地域学会の設立に貢献され、理事として、また 1973 年から 1982 年までは 5 期 10 年に亘り会長として本学会の創設期およびそれに続く成長期において地域科学の発展を学術的に牽引するのみならず、国内外の学術大会等の開催および学会の管理運営に尽力され、本学会の発展に多大な貢献をされました。会員を代表し、大石先生のこれまでのご功績に改めて感謝申し上げ、ここに謹んで哀悼の意を表します。

昨年に引き続き、2014 年を本学会の今後の半世紀の更なる飛躍と発展の礎を築く年とすべく、様々な企画が検討されています。まず、機関誌の編集、印刷、発行では昨年に導入された Editorial Manager (EM) システムが機関誌『地域学研究』の国際化と編集における会務の効率化および省力化に大いに貢献しています。引き続き編集担当委員および Peer Reviewer のお引き受け等、会員の皆様には、迅速な編集体制の確立にご協力をお願いいたします。

Econ Lit、J-STAGE 等の国際学術データベース等へのリンクについては既にご案内の通りですが、本学会のより一層の国際化情報発信を推進してまいります。昨年は、日本地域学会との連携と協力の下、Springer ジャパンとの契約により、Springer New Monograph Series, NEW FRONTIERS IN REGIONAL SCIENCE: ASIAN PERSPECTIVES がスタートしました。このシリーズは、日本を中心とするアジアにおける地域科学の最前線の研究成果をシリーズ単行本として刊行することを意図しています。当初、アメリカにおいて地域科学が地域的、空間的な諸現象や課題を研究し、その解決に貢献する学際的な学問としてスタートして以来、日本地域学会もその発展に大いに貢献してきましたが、言語

の問題もあって、必ずしもその研究成果や日本地域学会のこれまでの活動が国際地域学会において充分認識され、評価されているとは限りません。このシリーズは国内外の多くの地域科学者のご協力を得て企画されたものでありますが、これまで埋もれていた日本地域学会独自の研究成果の英文刊行も視野に入れるものとしています。最新の研究成果のみならず、これまで既発表の研究成果を国際発信して頂くための絶好の機会となりますので、会員の皆様にはぜひともこのシリーズでの企画をご提案下さい。

もう一つの国際情報発信の課題は、機関誌『地域学研究』の英文ジャーナル化です。これについては、2011 年から理事会、編集委員会においても話題になり、議論されてきました。現在は、『地域学研究』掲載論文の英文比率は約 50 % 弱ですが、大学、研究機関における業績評価の一般的な趨勢、科学研究費出版助成の方針等、様々な事情を考えると、近未来における英文ジャーナルへの移行は避けがたいものと判断されます。これに備えて、理事会、編集委員会では、英文ジャーナル化に向けてさらに具体的な議論を重ね、準備をして行きます。会員の皆様のご理解と、ご協力をお願いいたします。

今年も、国際地域学会 (RSAI) 関連でいくつか国際会議の開催が予定されています。日本地域学会関連で重要なものは、既に会員の皆様にはご案内の通り、5 月 26 日から 29 日までタイのバンコクで開催されます第 10 回国際地域学会世界大会ですが、既に多くの会員の皆様には大会参加登録等をして頂いているところです。今後はプログラム編成に入りますが、座長、討論者としての参加も歓迎いたしますので事務局までご一報ください。未だ時間がありますので、未登録の皆さまには積極的に本大会への参加をご検討いただければ大変ありがたいです。ところで、バンコクの政治情勢が不安定なところが懸念されますが、RSAI 本部では、出来る限り開催することを前提にここ 1-2 週間の情勢を見ながら、2 月半ばまでには参加者の安全確保を最優先に何らかの措置を講ずる予定です。これにつきましては、動きがあれば、その都度会員の皆様に周知いたします。

今年の年次大会は、このニューズレターでもご案内の通り、10 月 3 日 (金)ー 5 日 (日) の 3 日間 (開

催日が、定例日より1週ほど前倒しですのでご注意ください(願います)、千葉県柏市の麗澤大学において、小野宏哉教授を大会準備委員会・実行委員会委員長として開催されます。日頃の研究成果を発表し、会員相互の切磋琢磨、意見情報交換、交流を促進する絶好の機会ですので、奮ってご参加ください。

さて、会長として、会員の皆様に心苦しいお願いとこれへのご理解を、改めてお願いしなければなりません。既に昨年の総会においてご承認いただいたところですが、年会費を平成26年度から値上げいたしました。事務局および理事会、各委員会では会員諸賢の協力を得てこれまで経費削減に努力して来たところですが、この2年間、科学研究費出版費補助が得られなかったこと、また事務局経費の実質的な学会負担の増加等が重なったこともあり、理事会では苦渋の判断を行い、会費の値上げをご承認頂きました。経費削減により一層努力し、会員サービスの維持、改善に努めてまいりますので、引き続き本学会の活動にご理解とご協力をお願いいたします。

地域科学(regional science)が日本地域学会の設立により日本に広く紹介され、活動を活発に開始して以来半世紀あまりが過ぎました。地域科学は故W.アイサード博士によってアメリカで創立されて以来、60年余りが過ぎようとしています。最近、学界における地域科学の学際的科学としての認知度、重要性への認識は高まっているものの、よりこれを強固で確かなものとするためには、会員全員による強い意志に基づく日頃の勤勉と更なる努力が必要なものと考えます。会員の皆様とともにこれに向かって今後とも努力を重ねてまいりますので、ご協力をお願いいたします。(了)

II. 総会報告

平成25年度総会が、去る平成25年10月13日13時15分より、年次大会の会場である徳島大学工学部キャンパス(共通講義棟6階大会議室)で開催されました。氷鉤会長(筑波大学大学院教授)挨拶の後、同会長を議長として審議と報告が行われました。つづく学会賞授与式では、酒井泰弘委員長からの経過報告の後、氷鉤会長より受賞者に各賞が授与され、

総会は無事閉会しました。当日の次第、審議及び報告の内容は以下の通りです。

1. 開会の辞
2. 会長挨拶
3. 議題

1) 新入会員・退会希望者

渋澤総務担当常任理事より新入正会員34名、退会正会員40名、退会法人会員1団体について説明があり、これを承認。

2) 平成24年度事業報告

この件について渋澤総務担当常任理事より報告と説明があり、これを承認。

3) 平成24年度収支決算

この件について高橋財務担当常任理事より報告と説明があった後、筒井監事より適正に処理されているとの監査報告あり、これを承認。

4) 平成26年度の事業計画

この件について渋澤総務担当常任理事より提案説明があり、これを承認。

5) 平成26年度の収支予算

この件について渋澤総務担当常任理事より提案説明があり、これを承認。

6) 平成25年度の収支予算(修正案)

この件について渋澤総務担当常任理事より提案説明があり、これを承認。

7) 年会費改定の件 この件について渋澤総務担当常任理事より提案説明があり、これを承認。

8) 会則の改訂(事務局設置場所変更)

この件について渋澤総務担当常任理事より提案説明があり、これを承認。

9) 第51回(2014年)年次大会の開催地及び開催校等

渋澤総務担当常任理事より開催地を千葉県柏市、また開催校を麗澤大学とする提案があり、これを承認。

10) 第52回(2015年)年次大会の開催地及び開催校等の取り扱い

渋澤総務担当常任理事より開催地候補を西日本で選定中であることが報告され、今後の取り扱いについては事務局に一任することを承認。

4. 報告

1) 『地域学研究(43 巻)』の編集

多和田編集委員長より編集経過と今後の出版計画について報告された。

2) New Springer Monograph Series について

氷鉤会長より、本シリーズの概要について説明があり、今後の方針について報告された。

3) RSAI の動向

4) PRSCO の動向

5. 学会賞授与式

1) 選考経過報告

酒井委員長より受賞者等の発表と選考経過について報告があった。

2) 第 22 回学会賞授与

功績賞: なし

論文賞: 戸田常一

奨励賞: 中村大輔, 神谷大介

著作賞: 岡本信広, 木南莉莉, 中村俊彦, 廣野桂子,
福井秀夫, 浅見泰司

学位論文賞

田中啓一賞(博士論文賞): 影田康隆, 豊田祐輔

熊田禎宣賞(修士論文賞): 宋俊年

優秀発表賞(対象は前大会での発表者)

最優秀発表賞: 望月理生

3) 受賞者挨拶

6. その他の連絡事項

7. 閉会の辞

III. 理事会報告

平成 25 年度 日本地域学会 第 4 回理事会(持回り)

日時: 平成 25 年 10 月 1 日(火) 17:00

議題

1. 日本不動産学会セミナー「日本の TPP への加入と 国内不動産市場への影響について」の後援名義使用の件

上記後援名義使用を許可する件につき審議に付し、承認が得られた。

2. 日本不動産学会セミナー「これからの日本政治・経済と不動産市場について」の後援名義使用の件

上記後援名義使用を許可する件につき審議に付し、承認が得られた。

平成 25 年度 日本地域学会 第 5 回理事会

日時: 平成 25 年 10 月 12 日(日) 11:00-13:00

場所: 徳島大学工学部共通講義棟大会議室

出席者: 氷鉤, 細江, 三橋, 宮田, 渋谷, 高橋, 櫻井, 阿部, 石橋, 加賀屋, 鐘ヶ江, 木南(莉), 國光, 近藤, 斎藤, 佐々木, 多和田, 徳永, 中山, 藤岡, 三友の各理事(ただし, 福井, 松本, 宮城, 柳原の各理事より委任状付託); オブザーバとして筒井監事, 白井顧問, 酒井学会賞選考委員長, 木南(章)機関誌編集副委員長, 吉田機関誌編集委員, 水野谷, 内田, 古澤の各幹事; 秋山事務局秘書
議題

1. 新入会員・退会希望者の承認

渋谷総務担当常任理事より, 前回理事会以降, 申し込みのあった 34 名の正会員(個人会員)の入会と, 40 名の正会員(個人会員), 1 団体の法人会員の退会希望を審議し, これを総会に諮ることを諒承。

2. 平成 25 年度第 50 回年次大会の運営

これに関して近藤大会実行委員長と氷鉤会長より, プログラムの変更と総会次第について説明があり, これを諒承。

3. 年会費改定

これに関して高橋財務担当常任理事より, 本学会の会費を定める規程を改正する規程およびそれに伴い一般会員と学生会員の年会費を改定することについて説明があり, これを総会に諮ることを諒承。

4. 平成 25 年度修正予算(案)

高橋財務担当常任理事より, 平成 25 年度修正予算(案)について説明があり, これを総会に諮ることを諒承。

5. 平成 26 年度予算(案)

高橋財務担当常任理事より, 平成 26 年度予算(案)について説明があり, これを総会に諮ることを諒承。

6. 年次大会次期開催地・開催校

渋谷総務担当常任理事および氷鉤会長より, 次期開催地を千葉県柏市, 開催校を麗澤大学とすることについて説明があり, これを総会に諮ることを諒承。

7. 年次大会次々期開催地・開催校

氷鉤会長より, 次々期開催地を慣例に従って西日

本から選定することについて説明があり、このことおよび今後の開催地、開催校の選定などの取扱については事務局に一任することを総会に諮ることを諒承。

報告事項

1. 平成 25 年度第 4 回理事会（持ち回り）

2. 『地域学研究』第 43 巻の編集

多和田機関紙編集委員長より、『地域学研究』43 巻の掲載候補論文の選考結果と印刷状況について報告された。

3. New Springer Monograph Series について
氷鉋会長 (Editor in Chief) から、Springer Japan との間で契約が締結され、本シリーズが正式に発足した旨の報告があった。また、今後の本シリーズ編集委員会の構成等について地域学会に協力要請がなされた。

4. RSAI の動向

5. PRSCO の動向

6. J-stage 説明会内容

平成 25 年度 日本地域学会 第 6 回理事会（持ち回り）

日時: 平成 25 年 11 月 5 日（火）17:00

議題

1. 定期購読料改定の件

上記定期購読料を改定する件につき審議に付し、承認が得られた。

平成 25 年度 日本地域学会 第 7 回理事会

日時: 平成 25 年 12 月 22 日（日）13:00-15:00

場所: 学術総合センター会議室

出席者: 氷鉋, 細江, 宮田, 渋澤, 高橋, 櫻井, 石橋, 岡村, 加賀屋, 鐘ヶ江, 木南(莉), 近藤, 斎藤, 佐々木, 多和田, 徳永, 戸田, 中山, 長野, 萩原, 藤岡, 松本, 三友, 柳原の各理事（ただし, 阿部, 林, 福井の各理事より委任状付託）; オブザーバとして臼井顧問, 河野顧問, 酒井学会賞選考委員長, 木南(章) 機関誌編集副委員長, 吉田機関誌編集委員, 小野第 51 回年次大会実行委員長, 水野谷, 内田, 古澤の各幹事; 秋山事務局秘書

議題

1. 新入会員・退会希望者の承認

渋澤総務担当常任理事より、前回理事会以降、申し込みのあった 4 名の正会員（個人会員）の入会、2 名の正会員（個人会員）の退会希望を審議し、これを総会に諮ることを諒承。

2. 平成 25 年度第 50 回年次大会会計報告

これに関して近藤大会実行委員長より説明があり、これを諒承。

3. 平成 26 年度第 51 回年次大会準備委員会の構成

これに関して小野宏哉第 51 回年次大会実行委員長より説明があり、これを諒承。

4. 学会賞優秀発表賞の件

酒井学会賞選考委員長より説明があり、これを諒承。

5. 『地域学研究』セット販売の推進

これに関して氷鉋会長より価格改定について説明があり、これを諒承。

6. 新入会員勧誘キャンペーンの推進

これに関して氷鉋会長より説明があり、一部担当委員、幹事の交代について審議し、引き続き新入会員勧誘キャンペーンを推進して行くことを諒承。

報告事項

1. 平成 25 年度 日本地域学会 第 6 回理事会（持ち回り）

2. 『地域学研究』第 43 巻及び 44 巻の編集

多和田機関紙編集委員長より『地域学研究』43 巻および 44 巻の掲載候補論文の選考結果と印刷状況について報告された。

3. RSAI の動向

4. PRSCO の動向

IV. 委員会報告

1. 機関誌編集委員会報告

日本地域学会 第 45 回機関誌編集委員会

日時: 平成 25 年 12 月 22 日（日）11:00-12:00

場所: 学術総合センター会議室

出席者: 委員: 多和田, 松本, 木南(章), 氷鉋, 加賀屋, 木南(莉), 渋澤, 高橋, 藤岡, 細江, 光多, 三友, 近藤, 吉田の各編集委員, オブザーバとして酒井学会賞選考委員長, 岡村理事, 鐘ヶ江理事, 徳

永理事、水野谷、内田、古澤の各幹事；秋山事務局
秘書
議題

1) 『地域学研究』第43巻、第44巻掲載候補論文
の選考ならびに掲載論文の決定

レフェリー評価に基づき第43巻の掲載候補論文
の選考が行われ、掲載論文を決定した。

2) 同上機関誌印刷方針

第43巻の発行計画について、氷鉤編集総務より
説明があり、これを諒承した。

3) 同上機関誌書評欄応募図書取扱い

4) その他

科学研究費補助金の申請状況について報告があっ
た。

2. 学会賞選考委員会

優秀発表賞選考委員会（委員長 酒井泰弘 滋賀大
学名誉教授）では、第50回年次大会での発表を対
象とした慎重審議により、下記の会員の方々に平成
25年度日本地域学会学会賞優秀発表賞を授与する
事を決定しました。また優秀発表賞選考委員会での
審議は継続しており、今後、今回の優秀発表賞受賞
者の中から1名の最優秀発表賞受賞者が決定され
る予定です。最優秀発表賞の授与式は、本年の年次
大会（麗澤大学）で執り行われる予定です。

優秀発表賞：

菅原 喬史

主題：次世代自動車生産の経済波及効果の分析：

韓国産業連関表を用いて

中澤 光一郎（豊橋技術科学大学）

主題：動学空間応用一般均衡モデルを用いた南海
トラフと首都直下型地震の経済的影響の評
価

井田 喜宣（佛教大学）

主題：生活者から見た流域環境マネジメントに関
する一考察

李 博（広島大学）

主題：中国の地域経済における産業集積と労働生
産性成長の関係

津守 朋子（和歌山大学）

主題：中食消費構造の地域特性と影響要因に関す

る分析

Wei YANG (University of Tsukuba)

主題：Simulation of Agricultural Non-point Sources
Pollution and Risk Assessment in Dahuo-
fang Reservoir Catchment, China

Nian LI (Toyohashi University of Technology)

主題：Economic Assessment of a Large Earth-
quake in China: A Dynamic Spatial CGE
Application

Sutee ANANTSUKSOMSRI (Waseda University)

主題：Real Estate Investment and Vulnerabil-
ity to Financial Crisis in Thailand: A
Financial Computable General Equilib-
rium Approach

V. 役員人事等

平成26年日本地域学会事務局、各種委員会委員
等の交代についてお知らせいたします（ここに記載
以外は従前の通りです）。

1. 日本地域学会事務局

事務局次長兼幹事：水野谷剛（筑波大学）

事務局秘書：秋山春世

2. 第51回（2014年）年次大会準備委員会及び実 行委員会

委員長（準備委員長）：小野宏哉（麗澤大学）

副委員長：徳永澄憲（筑波大学）

3. 機関誌編集委員会

委 員：

鐘ヶ江秀彦（立命館大学大学院）

酒井泰弘（滋賀大学名誉教授）

徳永澄憲（筑波大学）

戸田常一（広島大学大学院）

吉田登（和歌山大学）

櫻井一宏（立正大学）（規程第3条第5号）

（注 昨年度当初発令漏れ）

小野宏哉（麗澤大学）（規程第3条第6号）

近藤光男（徳島大学）（規程第3条第6号）

4. Council of RSAI and Council of PRSCO of RSAI (国際地域学会及び同環太平洋地域学大会機構理事会)

RSAI Council

Councillor:

宮田 譲 (PRSCO 選出)

PRSCO Council

Councillor: 徳永澄憲 (筑波大学)

(注 多和田眞理事と交代)

5. 日本経済学会連合

『日本経済学会連合英文年報』への日本地域学会分の担当係

編集委員: 佐々木啓介 (東洋大学)

(注 臼井顧問と交代)

6. 地理関連学会連合

担 当: 櫻井一宏 (立正大学)

(注 伊藤達雄会員と交代)

VI. 会費納入のお願い

日本地域学会会員 各位

日本地域学会
会長 氷鉤 揚四郎

謹啓 貴会員におかれましては益々御健勝のこととお喜び申し上げます。さて、早速ですが、同封致しました請求書の通り、日本地域学会平成26年度会費をご請求申し上げますので

納入期限 平成26年3月末日

までに同封の振込用紙にてお支払いいただけます様お願い申し上げます。なお、預金口座引落としの手続きを平成26年3月20日までに完了された方には、平成26年6月27日に請求内容にしたがって引落としを行いますのでお早めにご手続きをおとり下さる様お奨め致します。また、学生会員年会費の適用には学生証(写し)の提出が必要ですので、faxか封書にて、学会事務局までお送りください。

既に会長挨拶で延べさせていただきましたが、学会の財政状況に鑑み今年度から会費値上げでの請求

となっております。何かと出費のかさむ折から誠に心苦しく、恐縮であります。事務処理の円滑化および再度にわたる督促の経費節減、さらに予想されます円安傾向の為替リスク回避のため上記期限までの早期納入にご協力いただけますよう、かさねてお願い申し上げます。 敬具

1. 平成26年度日本地域学会会費等(適用期間限定)

1) 平成26年度(平成26年4月1日ー平成27年3月31日)

一般会員年会費 13,000 円

学生会員年会費 8,000 円

2) *Papers in Regional Science* を印刷された形での購読希望の方の追加料金

一般会員 9,000 円

学生会員 5,000 円

但し、これらの会費、購読料が適用されるのは

a) 納入期限(平成26年3月末日)までに上記会費を納入された日本地域学会会員の方

b) 平成26年3月20日までに預金口座引落としの手続きを完了された日本地域学会会員の方

または

c) 4月以降に校費(公費)から支出する事を希望し、納入期限(平成26年3月末日)までにその旨および支払予定日を事務局に申し出た日本地域学会会員の方

に限りますのでご注意下さい。

2. 会費の期限内納入の特典

再度に渡る会費納入督促のための経費削減とRSAI本部送金為替リスクに配慮して、上記納入期限に遅れた場合には

1) 一般会員年会費として14,000円を請求する

2) 学生会員年会費として9,000円を請求する

3) *Papers in Regional Science* を印刷物として購読希望の追加料金を一般会員は10,000円を請求する

4) 上記学生会員は6,000円を請求する

という事を日本地域学会理事会で決定致しております。この主旨をご理解いただき、会費関連の事務処理の円滑化、経費節減にご協力頂けますよう、事務局からも重ねてお願い申し上げます。

3. Web 会員

本学会機関誌『地域学研究』の電子ジャーナルを、J-STAGE（科学技術情報発信・流通総合システム）により発行しております。これにより、会員の研究成果が広く世界に向けて情報発信されております。Web 会員に登録されますと、最新の論文が電子ジャーナル（本文 PDF）として閲覧可能となります。Web 会員登録を希望される方は、学会のホームページから、電子ジャーナル『地域学研究』個人購入者認証申込書（Web 個人会員）をダウンロードしていただき、ご記入の上、事務局までお申し込みください。

Web 会員価格（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）は以下のようになります。

- 1) 学会正会員である個人（Web 個人会員 A）
年会費 2,000 円
- 2) 学会非会員である個人（Web 個人会員 B）
年会費 5,000 円
- 3) 本学会法人会員である団体もしくは機関（Web 機関会員 A） 年会費 10,000 円
- 4) 本学会非法人会員である団体もしくは機関（Web 機関会員 B）* 年会費 40,000 円

（注 hspace1mm）Web 個人会員 B と Web 機関会員 B は、電子ジャーナル閲覧のみのサービスとなります）

4. 国際地域学会への会員登録について（重要）

平成 23 年度から RSAI（国際地域学会）への会員登録の方法が変更になりました。従来より日本地域学会の会員は自動的に RSAI（国際地域学会）の会員として登録されておりましたが、会員の増加に伴う国際本部事務局の負担を軽減するため、会員情報を電子メールアドレスで管理する事になりました。したがって今後は、会費を納入する事に加え、電子メールアドレスを日本地域学会事務局に登録することが必要となりました。今後も引き続き RSAI（国際地域学会）の会員となることを希望される会員で、電子メールアドレスを日本地域学会事務局に登録されていない方は、会費の納入に合わせて電子メールアドレスを事務局にお知らせください。また RSAI へご自身の電子メールアドレスを通知することに同意されない方は、日本地域学会事務局にその旨、お知らせください。

VII. 第 51 回日本地域学会年次大会（平成 26 年 10 月 3～5 日）のご案内

平成 26 年度（2014 年）日本地域学会第 51 回年次大会は、千葉県柏市の麗澤大学において下記の通り開催されます。会員諸賢におかれましては、論文報告、特別セッションの編成等、奮ってご参加下さい。

記

開催日：平成 26 年 10 月 3 日（金）～5 日（日）

開催校：麗澤大学

会場：麗澤大学 〒277-8686 千葉県柏市光ケ丘 2-1-1

大会準備委員会：委員長 小野宏哉（麗澤大学教授）

セッション：

共通論題

- a) 地域経済・地域雇用
 - b) 産業集積・情報
 - c) 環境評価・環境政策
 - d) 地域環境・地球環境
 - e) 国際経済政策
 - f) 交通・コミュニケーション
 - g) 経済分析・モデル分析
 - h) 意識分析・行動分析
 - i) 地方分権・地方財政・道州制
 - j) 持続可能都市・地域システム
 - k) 都市再生・地域再生
 - l) 沿岸域管理・海洋政策
 - m) ツーリズム
 - n) アジア経済
- 一般論題

立地、人口移動、地域経済等の地域学一般の課題すべて

公開シンポジウムテーマ

グローバル時代における都市・地域開発（仮題）

以上

論文報告・特別セッション編成の募集

論文報告または特別セッションの編成を希望される方は、各々下記事項を明記し、日本地域学会事務局へ e-mail で応募して下さい。応募締切は平成 26

年5月30日(金)です。なお申込書は学会のホームページからダウンロードできます。

[論文報告]

1. 論文タイトル
2. 上記が和文の場合には、同英文訳
3. 著者名、所属(複数の場合には発表者を明記)
4. 同上英文表記
5. Abstract 和文(700字以内)および英文(200words以内)の双方を提出
6. 対応責任者氏名、連絡先住所、tel、fax、e-mailアドレス等
7. 希望討論者2名(会員に限る。必ずしも希望通りとならないことをあらかじめご承知おき下さい)

[特別セッション編成]

1. セッションタイトルおよびセッションの意図、内容等の概要(和文300字以内、英文100words以内)
2. 座長(1-2名の会員)氏名、所属、同英文表記
3. 1セッション当たり3-4編の報告を目途に、各論文についての上記論文報告希望に準ずるデータ。但し、討論者は各々の論文について1名でも可。
4. 応募責任者氏名、連絡先住所、tel、fax、e-mailアドレス等

論文報告等に関する問い合わせおよび応募は、次の日本地域学会事務局宛にお願いします。

筑波大学生命環境系

氷鉋(ひがの)研究室内

日本地域学会事務局

〒305-8572 つくば市天王台1-1-1

tel,fax: 029-853-7221

メールによる応募: app@jsrsai.jp

メールによる問合せ: sec@jsrsai.jp

応募申込書の入手:

http://www.jsrsai.jp/index_jap.html

年次大会の参加申込み

大会および懇親会の参加申込み方法は、次号のニューズレターおよび学会HPにて公表する予定です。

学会HP: http://www.jsrsai.jp/index_jap.html

VIII. 国際地域学会関連会議のお知らせ

1. 第10回国際地域学会バンコク大会のお知らせ

第10回国際地域学会世界大会(10th World Congress of RSAI)がタイのバンコクにおいて開催されます。この世界大会は国際地域学会(RSAI: Regional Science Association International)が隔年に開催する大会です。最先端の研究成果を発表する場として、また世界の研究者との交流の場としてご活用いただけます。会員諸賢におかれましては奮ってご参加ください。詳細については、大会HPをご覧ください。また、学会ホームページからもリンクしています。

記

会議名: 10th World Congress of RSAI

開催日: 2014年5月26日(月)-30日(金)

開催地: Imperial Queen's Park Hotel in Bangkok
メインテーマ:

Socioeconomic Integration and Transformation:
Reshaping Local, Regional, and Global Space
大会HP:

<http://www.2014worldcongress.>

regionalscience.org/index.html

2. 第13回PRSCO Summer Institute in Loja, Ecuadorのお知らせ

第13回PRSCO(Pacific Regional Science Conference Organization) Summer instituteが、エクアドルのロハ市で開催されます。PRSCOは日本地域学会がメインとする国際会議であります。最新の研究成果を発表する場として、広く海外研究者との交流の場としてご活用いただけます。会員諸賢におかれましては奮ってご参加ください。

記

会議名: 13th PRSCO Summer Institute

開催日: 2014年7月23日(水)-25日(金)

開催地: Convention Center, Universidad Tecnica
Particular de Loja, Loja Ecuador (予定)

アブストラクト提出締切日や大会HPについては、後日学会ホームページまたはPRSCOホームページ

(www.prsco.info) にて案内いたします。

IX. 学会賞候補者推薦の募集

日本地域学会では、地域科学 (Regional Science) の発展に貢献する優れた会員の業績をたたえる為、日本地域学会学会賞を毎年授与しています。今年度も第 23 回日本地域学会学会賞授賞選考候補者の推薦の募集を行いますのでどうか奮ってご応募下さい。学会賞は以下の各賞からなります。

功績賞: 地域科学の進歩および学会の運営に顕著な貢献をなした会員を表彰する。

論文賞: すぐれた研究論文によって地域科学の発展に著しく寄与し、研究業績の意義や貢献が多である会員を表彰する。

奨励賞: 若手研究者ですぐれた研究論文を発表した会員を表彰する。

著作賞: 地域科学の発展に著しく寄与し、その意義や貢献が多である著作物を表彰する。

学位論文賞: 本学会会員である博士または修士課程修了者がその修了要件として提出したすぐれた学位論文を表彰する。

優秀発表賞: 年次大会においてすぐれた論文発表を行った会員に優秀発表賞を授与する。このうち最も優秀な論文発表を行った会員に最優秀発表賞を授与する。

功績賞・論文賞・奨励賞・最優秀発表賞受賞者には賞状とメダルが、著作賞・学位論文賞・優秀発表賞受賞者には賞状が授与されます。

第 23 回日本地域学会学会賞 授賞選考候補者推薦応募要領

応募期限:

- 1) 功績賞・論文賞・奨励賞・著作賞・学位論文賞
平成 26 年 4 月 4 日 (金) (事務局必着)
- 2) 優秀発表賞 平成 26 年 5 月 30 日 (金) (年次大会発表申し込みと同時、事務局必着)

応募方法: 功績賞への応募は他薦のみ、優秀発表賞への応募は自薦のみですが、その他への応募は自薦、他薦を問いません。専用の応募用紙を事務局に提出して下さい。

推薦資格: 推薦者は、日本地域学会会員であることが必要です。

受賞資格等:

- 1) 論文賞および奨励賞の表彰対象となる研究業績は、過去 2 年間 (暦年) に発表したもので、その主たるものが本学会関連誌『地域学研究 (Studies in Regional Science)』および Papers in Regional Science of the RSAI に掲載されている論文であることが条件です。
- 2) 奨励賞の応募については、年齢がその表彰対象となるべき主たる研究業績の発表当時 35 才未満であった事が必要です。
- 3) 著作賞の表彰対象となる著作物については、過去 2 年以内に出版もしくは公表された研究図書であることが条件です。
- 4) 学位論文賞については、表彰の時点において修了後 3 年以内のもので、当該学位論文に関連した学術論文を本学会の学術セッションで発表しているか、または本学会機関誌『地域学研究』あるいはこれに準ずる専門誌に掲載または掲載可として受理されていることが条件となります。なお、年齢による制限はありません。
- 5) 優秀発表賞については、以下のいずれかである必要があります。
 - a) 受賞対象となる論文発表の年度末において 30 歳以下である会員
 - b) 受賞対象となる論文発表時において大学院に在籍する会員
 - c) 年次大会の Early-bird Session (アーリー・バードセッション) で発表する会員であり、理事会がその表彰を適当と認めた会員

更にいずれの場合も、

本人が対象となる論文の第一著者であり、かつ年次大会当日に口頭発表を行った会員であること。

選考方法:「日本地域学会学会賞（奨励賞・論文賞・功績賞）に関する規程」,「日本地域学会著作賞に関する規程」,「日本地域学会学会賞学位論文賞規程」,「日本地域学会学会賞優秀発表賞規程」に基づく選考委員会の審議による。決定次第、受賞者には連絡します。

授賞式:第51回年次大会における総会（平成26年10月麗澤大学）にて執り行います。優秀発表賞については、翌年の年次大会で執り行います。

応募用紙の請求:日本地域学会事務局まで賞の種別を明記してご請求下さい。優秀発表賞については、年次大会発表申込用紙中に応募欄があります。

X. 会員の移動

新入会員

正会員 37名

アドリアヌス アムヘカ(筑波大学大学院生命環境科学研究科博士課程大学院生)

アナソクソムスリ スッテ(早稲田大学高等研究所助教)

李 慧仁(福岡大学大学院経済学研究科博士課程(前期)大学院生)

井田 喜宣(仏教大学社会学研究科)

尾崎 雅彦(大阪大学大学院経済学研究科専任講師)

小野寺 敬(公益社団法人 日本経済センター研究本部担当部長兼主任研究員)

片山 雄一(福岡大学大学院経済学研究科博士課程(前期)大学院生)

金本 裕司(筑波大学大学院生命環境科学研究科博士課程(前期)大学院生)

上井 啓太(豊橋技術科学大学建築・都市システム学系没澤研究室学生)

川津 昌作(川津商事株式会社 代表取締役)

川人 和美(徳島大学総合科学教育部博士課程大学院生)

國井 大輔(農林水産省農林水産政策研究所食料・環境領域研究員)

久保 隆行(サムスン物産株式会社都市開発本部長)

源野 雄輔(日本データーサービス株式会社企画部課長)

呉 懿奇(和歌山大学システム工学研究科学生)

澤内 大輔(農林水産省農林水産政策研究所食料・環境領域研究員)

竹内 啓仁(愛知大学経営学研究科大学院生)

辻 京子(徳島大学総合科学教育部学生)

辻岡 卓(四国大学経営情報学部講師)

津守 朋子(和歌山大学システム工学部)

鄭 素琴(名古屋産業大学大学院環境マネジメント研究科大学院生)

Dinh Thu Hang(筑波大学生命環境科学研究科博士課程(前期)大学院生)

Dumayas Arianne(中央大学経済学研究科)

永井 慧(新潟大学農学部4年生)

中川 智之(株式会社 テルアップ)

野崎 乃倫子(筑波大学大学院生命環境科学研究科博士課程(前期)大学院生)

パロリ ブレンディ(新潟大学産学地域人材育成センター研究員)

藤澤 美恵子(金沢星稜大学経済学部准教授)

Budjav Khishigjargal(筑波大学生命環境科学研究科博士課程(前期)大学院生)

古川 明美(徳島文理大学保健福祉学部人間福祉学科准教授)

牧田 修治 (四国大学経営情報学部准教授)

松野尾 仁美 (佐賀大学工学系研究科博士後期課程)

楊 巍 (筑波大学生命環境科学研究科博士課程大学院生)

吉本 諭 (長崎県立大学経済学部地域政策学科講師)

渡辺 公次郎 (徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 / 工学部建設工学科助教)

退会会員

正会員 40 名

青木 隆	赤池 光子	石坂 悦男
伊藤 達雄	臼井 規善	王 王
大塚 可奈子	大橋 健一	織田 恭平
小野 達也	葛 建平	川地 啓介
北村 貞太郎	金 少勝	黄 温玉
徐 峰	相 楠	Philip Sugai
田口 哲明	張 長平	手塚 伸
杜	中山 敬太	野上 健治
野田 英雄	花田 哲郎	原田 恭宏
藤田 昌弘	古野 遼佑	北條 勇作
本荘 雄一	宮崎 洋司	室 勝弘
藪内 繁己	山本 幸司	吉利 用邦
李 揚	劉 朋春	梁 陽
呂 佳		

法人会員 1 団体

(社) 北海道未来総合研究所

会員数

個人会員 1,039 名

法人会員 9 団体

日本地域学会第二代大石泰彦先生への弔辞

時維れ平成26年1月16日 日本地域学会第二代会長(1973－1982) 東京大学名誉教授 経済学博士大石泰彦先生忽然として御逝去せらる 志を同じうして日本地域学会に結集せる吾等の悲嘆また筆舌に尽くす能はざるものあり ここに学会の古参として在天の先生の霊に謹んで白す

顧みれば昭和37年6月19日 Regional Science Association (国際地域学会)の活動に呼応して 先生が主導的にわが日本地域学会(The Japan Section of the RSA)創設せらるる 爾来五拾有星霜 終始先生はわが学会の枢要にありて 他の応用経済学・政策諸学界とは異なる形で常に理論的指導に専念され同時に第二代会長の治世には事務局も兼務され雑務にも関与し学会の発展に甚大の寄与をなし給へり 斯くして今やわが日本地域学会の隆盛千を超える会員を擁して切磋琢磨瞭然として世界の国際地域学会に於ける重鎮たるの地位を占めるに至りたるものこれ実にその多くを先生匡益の賜なりとせざるべからず

先生は生粋の地域経済学 経済政策学の人 モデルの構想雄大にして 取り纏めまた簡にして要を極む 特に日本地域学会創設当初の「ワトキンス調査」と「世界銀行借款資料作成」の二大プロジェクトに関連してその基礎となる“国民経済的視点(外部経済、社会的便益)への配慮の不十分性”大石泰彦他『ワトキンス高速道路調査報告書の研究』(日本道路公団、1957年)は現在に至るまでその指導性はゆるぎないものである 他は省かれる

このように先生の世に在るや 天性の理論と現実とのバランス感覚を具備せるも その志を高く持して敢えて世俗に媚びず しかも先生の識見の高邁なる その温順慈恵の人となりと相俟って警咳に接する多くの後学をして敬慕措く能はざらしむるものありき

嗚呼今や先生なし 先生生前の言なお吾等が耳底にあり 先生生前の温容なお吾等が眼前に映えず しかも悲しい哉幽明早くも境を異にして邇今長へに先生の教えを享くる能はざらんとは 先生今やなし 此を思い彼を顧みれば哀悼の感極まりて殆んどその情を表するの辞を知らず 茲に先生に日本地域学会の最大の功労者たるの称号を再び贈らんとす 乞う先生の霊 吾等の微意を受け給え 吾等また先生に恥ずるなき研鑽を誓はん

謹みて蕪辞を陳ぶ 在天の先生の霊尚はくは享け給え

平成26年1月24日

日本地域学会第三代会長

筑波大学名誉教授

河野博忠

日本地域学会元常務理事

専修大学名誉教授

蔵下勝行

大石先生の御逝去を悼む

先生の御逝去の報に接し、半世紀に亘り直接御指導をいただきました私にとって、大きな支えを失った気持であります。かえりみますのに、今日まで研究者としての末席につらなっておりましたのも、ひとえに先生の御力によるものであると思っております。

1972年2月 山形大学の助教授をしておりました私のところに、先生から公募ではあるが、立正大学経済学部教授に推薦をしたいがどうか、ということで御推薦をいただきました。採用方の経済学部長は折下功先生で、これを御縁に日本地域学会の会員として活動に参加させていただいたのでした。

既に山形大学時代より、農村、山村地域の保全、開発計画に取り組んでおり、大石先生が主宰されていた地域科学研究の場に参加させて頂き、自らの能力を養い、研究を進めることが出来ればと、会員として参加しました。その後、理事として昭和60・61年期より、平成19・20年まで24年間にわたり務めさせていただき、平成9・10年期は副会長、平成11・12年期は会長として務めさせていただきました。平成8年5月には、天皇・皇后両陛下の御来臨の第5回世界大会などにも取組ませていただき、日本地域学会との浅からぬ御縁をつくらせていただきました。

東京へ来てからは、研究面では日本交通政策研究会基礎理論部会で、先生の御指導のもと斬新な理論指導をいただきました。今でも九段の日交研へ通った日々を思い出し、充実した勉強をさせていただき感謝申し上げます。これがもとに、日経紙上での基礎理論セミナー15回の連載などに発展し、森と水の経済学（東洋経済）をはじめ、いくつかの単著に実りました。

先生の東大定年後、立正大学経済学部長にお招きでき、大学院経済学研究科の設置に大変な御指導をいただき、とくに私については「緑と自然の問題」を特別指導の科目とし設けて下され、その後の環境経済学研究のもととなりました。私たちが博士課程をつくりました時の大きな礎石が与えられたのです。また、私が立正大学定年後、先生が大学院長されていた東亜大学大学院に私を教授としてお招き下され、先生は環境経済学の理論研究を担当され、「福岡さんは現実を良く見ているので、実証面を担当し、エコロジー経済学を担当してください」との御指示を受けました。このことは、私にとっては実に価値ある御指示であったのです。

理論から実証研究、日本地域学会での学会活動、大学での教学、社会でのリベラルな文化活動など、生活の主要な部分での貴重な御指導をいただきました。とくに環境やエコロジーへの研究のまだ始まった時代からの、ご自身の経済理論の権威者としての立場からだけでなく、私どものジャンルの研究にまで重視して下さった学問への御情熱、御理解は誠に有難く感じました。

精密な固い小さな文字（直筆）の紙面一杯に書いて下さったお手紙を、最早これからは頂けなくなったことは大変淋しい限りですが、今まで頂いたものをまとめて読みかえさせていただきます。

平成26年1月30日
日本地域学会第七代会長
立正大学名誉教授
東京大学農学系研究科
農学博士 福岡克也

「日本のマーシャル」大石泰彦先生を追悼する

大石泰彦先生は、私にとりまして研究者として、教育者として、そして何よりも人間としてまさに仰ぎ見るような存在の方でした。冷静な頭脳と温かい心情——これはイギリスの経済学者アルフレッド・マーシャルの有名な言葉です。「日本のマーシャル」たる大石先生には、これに加えて誠実な士魂の持ち主であられたように思います。

大石泰彦先生は、日本における近代経済学山脈の最高峰に位置する存在でした。わが経済学界の歴史を顧みますと、それは決して平坦な道ではありませんでした。戦前の河合栄治郎教授休職事件（1939年）や、戦後の東西冷戦とソ連崩壊（1989年）によって象徴されますように、欧米で主流の近代経済学が日本の大学でなかなか根付かない「冬の時代」が長く存在しました。大石先生の御言葉によりますと、「大石一人、孤塁を守る」という心境に追い込められたことも、一度ならずあったと仄聞しています。例えば、次のようなお話を直接伺ったことがあります。

「サカイくん、逆風の中でも頑張って前進してくださいよ。私は大学で大変な時期を過ごしたことがあります。長い教授会から解放されて帰宅したとき、すぐに仏壇の前に座って、『負けないぞ、負けないぞ！』と木魚をボンボン叩いていたこともありますよ」

大石泰彦先生はこのような孤立と逆境の中で、「あるがままの人間の学」としての厚生経済学を日本でいち早く研究教育され、その重要な応用例として地域経済学や生活経済学方面の有能な専門家集団を育成されました。大石先生が熊谷尚夫先生と共同編集されました『近代経済学』の三部作（基礎理論、応用経済学、近代経済学史；有斐閣）は、今でも燦然と輝く金字塔の体系的著作です。また、日本地域学会や生活経済学会などの学会は、大石先生の存在と影響なしには語る事が不可能なほどです。

「国際地域学会の世界大会を1995年、河野博忠教授を中心に東京で開く予定です。サカイくん、君にも色々頑張って欲しいのだよ」

私はもちろん、二つ返事で快諾させていただきました。世界大会の最中、オランダの重鎮たるペーター・ナイカンプ教授が次のように述べていたのが大変印象的でした。「日本の地域学会は掛け値なしに素晴らしいよ。まず長老のオオイシ、さらにはコウノ、ヒガノ以下へと世代交代が実に円滑に続いていて、その長期繁栄は約束されていますね」

私の元々の専門は理論経済学や数理経済学であったが、帰国後はリスクと不確実性の経済学、さらには地域科学・生活経済学など、応用経済学方面を広く深く研究教育することができるようになりました。彦根在住の私は「士魂商才」という言葉が大好きですが、大石先生にはむしろ「士魂学才」という用語がピッタリするような気が致します。

大先輩の大石泰彦先生、今は安らかにお休みください。ご冥福をお祈り致します。合掌。

平成26年1月31日

酒井 泰弘

日本地域学会名誉会員（元会長）